

## 分けない智慧 —お寺と病院を分けない・ケムリも分けない—

来馬明規

高岩寺住職

「お坊さん」「お医者さん」は嫌われ者として共通項もあるでしょう。しかし「寺院」と「病院」はまったくの別物です。これらを同一視する人はほとんどいないでしょうが、私は11年ほど前に毎日多くの参拝者を迎える仏教寺院の住職兼医師となりました。そこで、「寺院」と「病院」のあいだの垣根を取り払い、お寺で医師としての知識や経験を活かす方法を考えてきました。

循環器内科医としての答えは「禁煙を推進しタバコのない社会を実現すること」「AEDを普及させ地域の救急対応力を高めること」を寺から発信し、こつこつ実践していくことでした。これらふたつのテーマを通して、寺院も病院も健康長寿を願い、命を大切に場所として不可分であることを示したかったのです。「小児科」「内科」「外科」に加え、「臓器別」「疾患別」などと診療科を細分化していくことは良い医療の実現の為に重要かもしれませんが、世の中で「区別・分別」がいつも有益とは限りません。例えば国境や人種という「区別・分別」は紛争や差別のもとになっています。

ですから、あらゆるものごとについて分け隔てをしなければ一切の差別は起こりません。このような態度を仏教で「無分別智」と呼んでいます。完璧な実践は容易ではありませんが、大切な仏の智慧なのです。

さて、タバコ問題を取り扱う際には「喫煙者」と「非喫煙者」、「喫煙所」と「禁煙区域」、「従来のタバコ」と「新型タバコ」など、様々な区別がなされています。しかし結局は命を粗末にする身勝手な線引きです。「分煙」や「新型タバコ」で吸う人の健康が保証され、吸わない人が有害なタバコから保護されるわけではありません。「分煙」の真のねらいはタバコ消費の維持、つまり私たちを誑[たぶら\*ルビ]かす悪魔を守ることなのです。喫煙者が汚い煙を吐けば、それを誰かが吸うのです。病と死をもたらす悪魔「タバコ」を追い払い、よけいな「区別」をしないことが大切です。

タバコは生きとし生けるものに有害です。「無煙こそ無分別智」といえるでしょう。「タバコで分けない社会」を実現するために「分けない智慧・無分別智」の実践がもとめられています。

## 略歴

来馬明規（くるま・あきのり） 1963年生・  
1987年日本医科大学卒

同大循環器内科・東京医科歯科大学難治疾患研究所・米国エモリー大学医学部、理化学研究所脳科学総合研究センター、東京大学医科学研究所 研究員を経て平成17年（2005）東京・巢鴨とげぬき地蔵尊高岩寺第29世住職に就任し現在に至る

著書に『祖師に学ぶ禁煙の教え』（千葉公慈・来馬共著）

一般社団法人日本禁煙学会監事・日本禁煙医師  
歯科医師連盟会員

総合内科・循環器・禁煙  
指導専門医・医学博士

日本医科大学心肺蘇生フ  
ォーラム・東京消防庁応急  
手当指導員

